

平成 19 年度個体数調整実施結果

1. 2007 年度の捕獲目標頭数

70 頭～95 頭

2. これまでの実施期間

第一回作業：2007 年 06 月 19 日～ 06 月 25 日	7 日間
第二回作業：2007 年 08 月 06 日～ 08 月 10 日	5 日間
第三回作業：2007 年 09 月 28 日～ 10 月 04 日	7 日間
第四回作業：2007 年 11 月 16 日～ 12 月 05 日	16 日間
第五回作業：2007 年 12 月 01 日～ 12 月 04 日	4 日間

第五回作業は、上北山村獣友会員による銃器（装薬銃）による捕獲作業を行った。また、第四回期間中は GPS 首輪装着作業を平行して行った。

装薬銃の実施に際しては、事前に関係機関・団体に周知をはかるとともに、HP への掲載や注意看板の設置や安全確保のための人員配置を行うことで安全確保を行った。

3. 捕獲頭数および内訳

捕獲作業第一回は捕獲効率*は 1.43 と比較的高かったが、以降、捕獲作業を重ねるにつれ、捕獲効率は減少した。通年を通じた捕獲努力量は、0.48（ただし、第四回捕獲を除くと 0.60）であった。

捕獲方法別の捕獲数は麻酔銃（15 頭/捕獲効率 0.74）、と装薬銃（15 頭/捕獲効率 0.44）が同数であった。麻酔銃による捕獲頭数が多かったのは、前半期の捕獲効率が高かったこと、捕獲努力量が多かったことによると考えられた。装薬銃による捕獲効率は第一回及び第二回の捕獲効率を下回ったが、第三回と同程度であった（表 1-1）。

表1-1 2007年度の捕獲実績内訳

	麻酔銃		アルパインキ ヤプチャヤ		装薬銃		性別計		合計	捕獲効率*
	オス	メス	オス	メス	オス	メス	オス	メス		
第一回	1	7	1	1	-	-	2	8	10	1.43
第二回	0	4	0	1	-	-	0	5	5	1.00
第三回	0	2	0	0	-	-	0	2	2	0.28
第四回	1	0	0	0	-	-	1	0	1	0.06
第五回 装薬銃	-	-	-	-	2	13	2	13	15	0.44
計	2	13	1	2	2	13	5	28	33	0.48 (0.60)

* : 捕獲実施合計日数あたりの用いた銃数またはわな数で割った値。 () : 第四回を除いた値

4. 捕獲効率の経年的変化

捕獲手法別にみると、麻酔銃による捕獲効率が2007年度に高くなった。アルパインキヤプチャヤでは昨年度とほぼ同じであった。装薬銃では、0.44であった(表1-2)。

捕獲効率の年度別の推移をみると、2002年度が0.71、2003年度が1.25、2004年度が0.75で、2005年度が0.46、本年度が0.60(第四回捕獲作業を除いた)で、本年度は装薬銃を導入したことにより前年度より捕獲効率は増加した(表1-3)。

表1-2 手法別年度別の捕獲効率

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度*
麻酔銃	0.51	0.97	0.53	0.40	0.30	0.74
アルパインキヤプチャヤ	0.20	0.28	0.22	0.04	0.17	0.16
簡易捕獲ワナ(タイプI)	-	-	-	0.01	-	-
簡易捕獲ワナ(タイプII)	-	-	-	0.00	-	-
装薬銃	-	-	-	-	-	0.44
計	0.71	1.25	0.75	0.48	0.46	0.60

- : 実施していない * : 第四回捕獲作業を除いた値

表 1-3 年度別の捕獲効率の変化

2002 年度		2003 年度		2004 年度		2005 年度		2006 年度		2007 年度	
頭数	効率										
25	0.71	45	1.25	48	0.75	25	0.48	25	0.46	33	0.60*

* : 第四回捕獲作業を除いた値

5. 装薬銃の効果について

装薬銃による捕獲は、ライフル銃（22 丁）、散弾銃（12 丁）を用いて実施された。これらの銃種に用いられた弾頭はいずれも非鉛弾であった。

今回の作業結果を見ると、近年の捕獲効率が約 0.5 であったが、装薬銃を導入したことにより捕獲効率が 0.6 へと増加した。

6. 捕獲頭数の経年変化

2003 年度以外は計画頭数を達成できず、2004 年度以降は前年度不足分を繰り越したため、計画頭数と実績頭数との差が年々開いている。

2007 年度も、装薬銃（獵銃）を導入したにもかかわらず、計画頭数を達成することはできなかった。

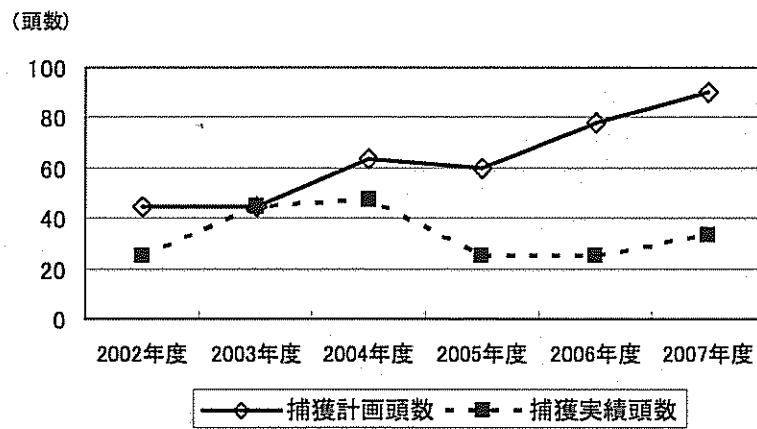


図 1-1 捕獲計画頭数と捕獲実績頭数の推移